

## 会議結果報告書

- 1 会議の名称  
令和5年度第2回柳井市立図書館協議会会議
- 2 開催日時  
令和5年9月10日（日）10時～11時50分
- 3 開催場所  
柳井市立柳井図書館2階視聴覚室
- 4 出席者  
9名（欠席 0名）
- 5 公開・非公開の別  
公開（傍聴人 1名）
- 6 会議の議事録（要旨）
  - （1）開会
  - （2）柳井図書館長あいさつ
  - （3）協議事項
    - （1）図書館サポーター制度の構築について  
（事務局）  
図書館サポーター制度 事務局（案）について説明

前回会議での意見・課題に対して検討したことを伝える。

読み聞かせについては、定期的またはストリート的な開催か、また職員のバックアップ体制などのご意見をいただいたが、まずはサポーターの募集を行い、応募者人数によって運用を考え、次回の協議会の中で相談させていただきたい。

サポーター制度については、構築の段階なので無理のない運用となるように考えていきたい。

大人の読み聞かせについてもご意見をいただいたが、こちらは実施時期を決めて定期的な開催を考えている。

子ども同伴のサポーターをサポートするサポーターについては、安心安全の観点からもこのサポーター制度の中で運用するのは難しいのではないかと思う。

児童担当の司書の配置について、開館当初は来館者の増加が見込まれ、自動貸出機等の説明や貸館業務・イベント業務など業務量の増加が想定されることから、当面は基本的な運営を確実に行うことが必要だと考えている。提案いただいたご意見については検討していくが、開館当初は、児童担当司書の配置は行わないようにしたい。開館後、運営状況や司書の属性を判断しながら、子育て支援機能を備えた図書館となることから前向きな運用としていきたい。

サポーター制度について、前回からの変更点について説明を行う。

まずは、対象は図書館活動に関心がある中学生以上としたい。

募集については、希望する活動を選択してもらうようにしたい。

また、施設案内については、新たなIC機器が設置され、書架も蔵書数も増えることから、機器の取扱い説明や書架の案内などを行ってもらいたいサポーターとして募集したい。

次に、配架サポーターについては、蔵書数が増えることで、貸出量の増加が想定されることから、書棚に本を戻してもらうサポーターを募集したい。

子供見守りサポーターについては、夏休みの宿題のお手伝いをするなど期間限定で行うような募集としたい。

イベント運営については、これまでと同様大規模イベントを一緒に行えればいいかなと考えている。

図書館美化については、図書館や公園を含めて専門業者に委託する部分はあるが、夏場などはどうしても業者委託だけの管理は難しい。しかし、樹木の選定や芝生の管理など技術が必要なものではなく、簡単な除草作業などの支援をいただけるようなサポーターを募集したい。

司書業務サポーターについては、技術を要する部分もあることから当初の募集からは外したいと考えている。司書業務サポーターについては、今後サポーターの運用を始めてから新たなサポーターとして検討していきたい。

サポーターの登録期間については、一年更新としたいと考えている。

更新手続きについては簡易な方法で行いたいと思う。

活動実績がない方の対応は、今後検討していきたい。

初年度の登録は、令和6年度末までとしたい。

募集は、広報やない10月号に掲載し、11月19日までの期間で募集したいと考えている。募集期間を過ぎても応募したい方がいれば対応したいと考えている。

次回の協議会の中で、応募状況や制度運用について説明していきたいと考えている。

また、引き渡し後に顔合わせを兼ねて運営会議を行いたいと考えている。

その後には、事業計画などの予定や事業説明をしていきたいと思う。

また、図書資料移転時に、新図書館での開梱作業（粗配架作業）を配架作業に登録

していただいたサポーターの皆さんと一緒にいきたいと考えている。

移転作業の後に I C 機器も設置されているので、機器の操作研修等を行いたい。

また、サポーターへのお願い事項についても運営会議の中で説明していきたい。

(委員)

運営会議と協議会とは違うのか。

(事務局)

図書館協議会は、館長の諮問についての協議や、図書館運営に対して意見をいただく機関である。

サポーターの運営会議については、サポーター同士が集まる会議となる。図書館協議会とは全く別の組織となる。

(委員)

図書の勧奨はしないというように記載があるが、本の紹介をしてはいけないのか。

(事務局)

基本的に自分の好みの本など特定の本を勧めず、その分類の書架への案内までのお願いとなる。

(会長)

サポーターの役割として、内容がレファレンス業務にあたると思われたら、司書へ繋ぐようにしてほしいと思う。

(事務局)

業務内容のことについては、運営会議の中で説明していきたいと思う。

(会長)

また、図書館は守秘義務があることをサポーターに十分説明してもらいたい。

(委員)

カウンターに市民活動センター職員がいる場合、司書と相談員の区別がつくようにしているのか。

(事務局)

まだ、市民活動センター職員と司書の名札の区分けなどの運用は未定ではあるが、

利用者の方からの問い合わせは、必ず司書や職員に伝わる運営体制にしていきたい。

(委員)

スタジオの利用のことなどについて司書での対応となるのか。

(事務局)

スタジオの利用方法や予約、受付業務は、職員であれば誰でも対応できる体制にしていきたい。

(委員)

相談窓口については、司書ではなく職員へのほうが良いのではないか。

(事務局)

職員への問い合わせとしたい。

(委員)

事前研修のマニュアルについては作成していないのか。

(事務局)

まだ作成していない。

(委員)

事前研修は受けないとサポーター活動はできないのか。

(事務局)

読み聞かせなどは、事前研修を受けないとやり方が分からないのではないか。

(委員)

秘密保持などの説明も聞いておかないといけないのではないか。

(事務局)

秘密保持などの説明は、運営会議の開催を計画するので、サポーターの方はこの会議に参加してもらい、その中で説明していきたいと思う。

また、サポーターの応募数によっては、運営会議の回数を増やす必要が出てくるかもしれない。秘密保持、公平性の確保の説明は、徹底していきたい。

(委員)

サポーターについては中学生以上となっているが、応募人数が、かなり多くなる可能性があると思う。

(事務局)

まだ、どのくらいの応募になるか想定できない。多数となった場合、登録をしたけど活動があまりないといったケースも出てくる可能性がある。

(委員)

中学生のサポーターにも、秘密保持など理解してもらえるのか。

(事務局)

理解してもらわないといけない。

(会長)

図書館のほうでも、サポーターへのお願いについて、基準を設けてもらえればと思う。

(委員)

募集要項の中に、サポーターへのお願い事項について必要な部分を掲載するようにしたほうがいいのではないか。

(事務局)

募集要項の中に記載するよう対応する。

(会長)

申込書の希望する活動の中で、選択する項目に事前研修ありという表記をすれば把握しやすいのではないか。

(事務局)

そのように対応する。

(委員)

サポーターの種類ごとに別々に事前研修を行ったほうがいいのではないかと思う。

(事務局)

事前研修については、別々に行いたいと考えている。

(会長)

図書の移転時には、別にサポーターを募集するのか。

(事務局)

一般に広く募集するようには想定していない。サポーターとして登録していただいた方をお願いしたいと考えている。イベント的に多く集まりすぎても指示が行き届かなくなり混乱する可能性がある。またタイミング次第ではあるが、学生にはお手伝いだけだと考えている。

(委員)

研修が必要であれば、中学生については、研修を受けることができる日にちが限られるのではないかと。

(事務局)

研修の日にちを複数回設けなければならないと思っている。  
学生は別日に設けるなどの対応も必要になる可能性がある。

(委員)

研修のボリュームはどのくらいを想定しているのか。

(事務局)

研修の時間などは、未定である。

(委員)

研修内容をマニュアル化し、いつでも見られるようにして、研修会にはできるだけ参加してくださいというようにしたらいいのではないかと。

(事務局)

マニュアル化する部分はあると思うが、読み聞かせ等は、紙ベースではなく現場での研修が必要になると思う。マニュアルについて、作れるものは作っておきたいと思う。

募集は年一回であるが、随時の応募を断ることはない。

(会長)

研修について、読み聞かせについては県立から講師を招き、年に数回研修会を実施し、サポーターの方はその研修を受けてもらえるようにしたらいいのではないかと。

機械の操作方法なども、開館前に何回も日にちを用意してもらい、研修したらいい

のではないか。

(委員)

運営会議について、必ず参加しなければならないのであれば、いつ開催するのか分かった方が参加しやすいと思う。募集の中で、いつ開催するのか示してもらえるといいと思う。

(会長)

必ず参加しなければならないのであれば、一回の開催では無理だと思う。複数回開催し、その中で参加してもらえるようにしないといけないのではないか。

(事務局)

図書館としては、秘密保持など必要な事項の説明をしておきたいので、募集の段階で、複数回説明会を実施する旨の表記などの対応はしていきたいと思う。

(委員)

申込書に、参加しやすい希望日を選択してもらおうようにしたらいいのではないか。

(事務局)

そのように対応する。また、サポーターへのお願したい事項についても募集要項に加えるようにする。

(委員)

読み聞かせについては、研修を必須にするのか。

(事務局)

募集の段階では、必須にする予定はない。

(会長)

図書館のほうで、読み聞かせサポーター登録のレベルをどこまでにするか検討してもらいたい。

(事務局)

現在、図書館主催のおはなし会で、3つのボランティア団体に読み聞かせをお願いしているが、このサポーターの読み聞かせについては、そこまでのレベルを求めている。しかしながら、子供たちにとって悪影響とならないように、最低限のラインを守って行っていただきたいと思っている。

最低限のことを教えてもらう方については、今後決めていきたい。

(委員)

読み聞かせの方法について、柳井図書館でのやり方、考え方は統一しておきたいと思う。

(事務局)

県立の講師を招いたら、示すことは可能か。

(委員)

難しいと思う。

(事務局)

研修会では、持ち方などの所作を学ぶのではないのか。

(委員)

毎月、図書館主催で行っているおはなし会については、共通認識のもとに行っていると思うが、サポーターによる読み聞かせについて、そこまでのレベルを求めると難しいのではないかと思う。

(委員)

読み聞かせについては、研修も必須ではなく自由にできるようにしたのでいいのではないか。

(委員)

子どもの読み聞かせについては、随時か定期的に行うのか。

(事務局)

定期的に行うほどサポーターが集まるのか不明な部分はあるが、提案としては、その日に急に始めるのもいいのではないかと意見もあるので、応募人数によって判断したいと考えている。

(委員)

おはなし会のときには、おはなし会時の最後に本を持ってきたら読むよというスタイルで行っているが、そのような感じであれば参加したい人もいるかもしれないし、大勢の前で読むのは少しスキルが欲しいと思う。

(委員)

研修会では、所作も必要だが、気持ちの部分学べるようにしてほしい。

(委員)

技術を習得する機会があったほうがいいと思うけど、楽しくできるような気持ちの部分が大事だと思う。

(委員)

大人の読み聞かせの中では、お父さんが飛び入りで読み聞かせを行う場合があり、子ども達も喜んでいる。

(会長)

研修の中で勉強する機会があったほうがいいと思うけど、研修を必須にするかどうかは、図書館側の決定事項でいいと思う。

(事務局)

県立図書館の研修では、基本的な所作を教えられるのか。

(委員)

本のめくり方や、持ち方などの所作を教えてくれる。

(事務局)

募集要項の中に入れる事前研修が必要な種別について、機器の説明や配架は必須とする。

(委員)

これまで図書館にあまり関わって来なかった人が、何か図書館に協力したいと思っても、事前研修があると明記しておけば、協力しやすくなると思う。

(委員)

研修については、その都度の説明は大変ではないか。動画での説明マニュアルを作成してみてはどうか。

(会長)

開館まで時間があるので、何回か研修の機会を設けるようにしてはどうか。

(事務局)

事前研修は、種別ごとに案内を行う。

(委員)

申込み表のサポーター経験についての記載はどうするのか。

(事務局)

削除する。

(会長)

司書資格については、申込表に記載することとする。

他にないようであれば、協議事項1については終了する。

続いて、協議事項2に入る

(事務局)

おもちゃの設置について、前回の協議で話があったが、カルタや、将来、本を読んだり字を覚えたりするようなことに繋がるものについての設置は、検討したいと思うが、玩具的なものは常設せず、自由に使用できる環境にはしないよう考えているが、ご提言の中でおもちゃの寄附についての話があったが、寄附であれば事務所で管理し、ぐずっている子供に貸したり、スタジオの集会に貸出をすとか、そのような場合に活用させていただくことは可能ではないかと考えている。

現在、みどりが丘図書館建設の工期については、12月末ぐらいまで延びている。

開館の時期については、周辺の工事があり、まだ案内ができない状況である。

(会長)

それでは、次回についてはいつごろになるのか。

(事務局)

12月頃を予定している。

(5) 閉会